

目次

領域	単元番号	単元名	ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
読解入門	1	指示語の内容をまとめてみよう	4		/	/	○ △ ×
	2	キーワードを抜き出してみよう	8		/	/	○ △ ×
	3	キーセンテンスを抜き出してみよう	12		/	/	○ △ ×
	4	段落の要点をまとめてみよう	16		/	/	○ △ ×
読解基礎	1	文学的文章①	20		/	/	○ △ ×
	2	文学的文章②	24		/	/	○ △ ×
	3	文学的文章③	28		/	/	○ △ ×
	4	文学的文章④	32		/	/	○ △ ×
	5	文学的文章⑤	36		/	/	○ △ ×
	6	説明的文章①	40		/	/	○ △ ×
	7	説明的文章②	44		/	/	○ △ ×
	8	説明的文章③	48		/	/	○ △ ×
	9	説明的文章④	52		/	/	○ △ ×
	10	説明的文章⑤	56		/	/	○ △ ×
読解標準	1	文学的文章⑥	60		/	/	○ △ ×
	2	文学的文章⑦	64		/	/	○ △ ×
	3	文学的文章⑧	68		/	/	○ △ ×
	4	文学的文章⑨	72		/	/	○ △ ×
	5	文学的文章⑩	76		/	/	○ △ ×
	6	説明的文章⑥	80		/	/	○ △ ×
	7	説明的文章⑦	84		/	/	○ △ ×
	8	説明的文章⑧	88		/	/	○ △ ×
	9	説明的文章⑨	92		/	/	○ △ ×
	10	説明的文章⑩	96		/	/	○ △ ×
古文漢文	1	古典①	100		/	/	○ △ ×
	2	古典②	104		/	/	○ △ ×
	3	古典③	108		/	/	○ △ ×
	4	古典④	112		/	/	○ △ ×
	5	漢文の読み方に慣れよう	116		/	/	○ △ ×
	6	漢詩の形式と構成に注意しよう	117		/	/	○ △ ×

領域	単元 番号	単元名	ページ	年間予定	学習日	復習日	理解度(○△×)
文法	1	文法①	118		/	/	○ △ ×
	2	文法②	122		/	/	○ △ ×
	3	文法③	126		/	/	○ △ ×
	4	文法④	130		/	/	○ △ ×
	5	文法⑤	134		/	/	○ △ ×
	6	文法⑥	138		/	/	○ △ ×
	7	文法⑦	142		/	/	○ △ ×
	8	文法⑧	146		/	/	○ △ ×
作文	1	原稿用紙の使い方を覚える	150		/	/	○ △ ×
	2	二段落構成の文章を書く	152		/	/	○ △ ×
漢字	1	漢字練習①	160		/	/	○ △ ×
	2	漢字練習②	170		/	/	○ △ ×

2 記述トレーニング
指示語の内容をまとめてみよう

● 指示語の内容をまとめるためには

- 1 指示語の問題に答えるためには次のような手順をふむ必要がある。
 - (1) 指示語を含む文は、文脈を重視して、文末まで読む。
 - (2) 原則的に、指示語の前の部分から探す。(ただし、指示語の後に指示内容が述べられている場合もあるので、前の部分を見て指示内容に該当する部分が見つからない場合は、後を探す)
 - (3) 見つけた、または、まとめた指示内容は、必ず指示語の部分に代入して、意味が通るかどうかを確認する。
- 2 指示語の内容をまとめるときの注意点
 - (1) 設問の仕方に正しく対応させる。
 - ① 「何」を指しているか → 名詞(体言)の抜き出し
 - ② 「どういうこと」を指しているか → 「〜こと」(名詞句・名詞節)
 - ③ 「——線部」の指し示す内容 → ——線部に即してまとめる

「〜こと」の形になることが多いが、あくまでも——線部との対応の仕方 で文末をまとめる配慮をする。
- (2) 指示語の種類や品詞によってまとめ方が異なる。
 - ① 「これ・それ・あれ・どれ」「こっち・そっち・あっち・どっち」「(この)・(その)・(あそこ)・(どこ)」
 - ↓ 代名詞(具体的なもの・方向・場所)・「〜こと」などをまとめる
 - ② 「この・その」↓ 連体詞、「こう・そう」↓ 副詞

どちらも修飾語であり、その形にそのまままとめ方が必要。
- (3) 指示語の内容をまとめるときには、指示語を用いない。

2 ———線部の指示語が指している部分を書き抜いて答えなさい。

みなさんは水が酸素と水素からできていることは知っていますね。そしてそれが一対二の割合になっていることも御存知でしょう。

2 ———線部の指示語が指している部分を書き抜いて答えなさい。

神様や仏様に、何かをお願いしたりお祈りしたりするときに、祝詞やお経などを唱えますが、^①それもおまじないです。^②おまじないもそうです。

3 ———線部の指示語が指している内容を書いて答えなさい。

池上嘉彦「ししぎな」とは「とほのふしぎ」「おじく

4 — 線部の指示語が指している内容を書いて答えなさい。

〈東山魁夷「風景」より〉

Blank rectangular box for writing the answer to question 4.

3 5 — 線部の指示語が指している内容を、四十字以内(句読点も字数に数えます)で書きなさい。

〈朝日新聞「記事より」〉

Grid box for writing the answer to question 5.

6 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Blank rectangular box for writing the answer to question 6.

(注) 幻想||とりとめのない想像。

〈手塚治虫「ガラスの地球を救え」より〉

2 (1) — 線①「そこ」が指している部分を、本文中から書き抜いて答えなさい。

Blank rectangular box for writing the answer to question 2(1).

2 (2) — 線②「そんな場所」とは、どんな場所ですか。本文中から書き抜いて答えなさい。

Blank rectangular box for writing the answer to question 2(2).

3 (3) — 線③「それ」が指している内容をまとめた次の文の□に入ることばを、文末のまとも方に注意して、二十五字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

〈美しく豊かな自然にふれると、□〉

Grid box for writing the answer to question 3.

7 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈吉野源三郎の文章より〉

3 (1) — 線①「それ」が指しているものを、全て三字以内で書き抜いて答えなさい。

3 (2) — 線②「それ」が指している部分を、本文中から十五字以内(読点も字数に数えます)で書き抜いて答えなさい。

4 (3) — 線③「この点」とは、どんな点ですか。三十五字以内(句読点も字数に数えます)で答えなさい。

3 (4) — 線④「それ」が指している内容を、十五字以内(句読点も字数に数えます)で答えなさい。

4 (5) — 線⑤「その」が指している内容を、「どの一つを」につながるよう
にまとめなさい。

25 20 15 10 5

2 キーワードを抜き出してみよう

1 ことばの勉強をしておこう 誤字訂正・仮名づかい・送りがない

漢字の誤用、仮名づかいや送りがないの誤りは、テストや作文において減点の対象となる。また、社会人になって文章を書く場合にも気をつけていないとはずかしい思いをすることもある。内容だけでなく、表記の面でも正しい文を書けるようにしよう。

1 次のそれぞれの文の中から誤字を書き抜き、正しく直して答えなさい。

- (1) 運動会が雨で伸びた。 []
- (2) 電話でていねいに応待する。 []
- (3) 来客を心から勧迎する。 []
- (4) 車の住来の激しい通り。 []
- (5) 君の考えはあまりに利個的だ。 []
- (6) 絶対絶命のピンチに陥る。 []

2 次のそれぞれの組の——線部の中から、仮名づかい、または送りがないの誤ったもの一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1)
 - ア せかいぢゅう(世界中)が注目した事件。
 - イ 大きなじしん(地震)が発生する。
 - ウ 洗濯したら服がちぢ(縮)んだ。
 - エ 経済の発展がいちじる(著)しい国。
- (2)
 - ア 飛行機でニュー・ヨークに向かう。
 - イ 祖母は明治時代に生まれた。
 - ウ 父は毎朝六時に起る。
 - エ 警官がスリを押さえつける。
- (3)
 - ア 会議は長くつづ(続)いた。
 - イ 石につまずいた。
 - ウ うそは言いつらい。
 - エ 犬がちか(近)ずいてきた。

3 次のそれぞれの組の中から仮名づかいとして誤っているもの一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1)
 - ア おおい(多い)
 - ウ おおどうり(大通り)
 - (2)
 - ア みぢかい(短い)
 - ウ はなぢ(鼻血)
 - (3)
 - ア かおう(買おう)
 - ウ こうげん(高原)
 - (4)
 - ア はずかしい
 - ウ ばんづけ(番付)
- イ おうえん(応援)
エ おうさま(王様)
イ みぢか(身近)
エ そこちから(底力)
イ きのう(昨日)
エ とおいつ(統一)
イ もとづく
エ いきづかい

2 キーワードを抜き出してみよう

記述トレーニング

● キーワードとは

説明的文章でも、文学的文章でも、繰り返し出てくることばがあるが、そのことばが「キーワード(中心語)」であり、その文章の要旨・主題に接近するためのカギになる重要語である。また、出てくる度合いは少なくても、内容理解の上で手がかりになることばも、同様にキーワードである。この単元では、もっぱら一文からキーワードを抜き出すことから始め、少し長めの段落の中のキーワードの発見のし方までを練習する。

1 次の文について、あとのそれぞれの問いに答えなさい。

〈山の上に、明るい月が出た。〉

- 2
- (1) この一文から、①主語と②述語を、それぞれ一文節で書き抜いて答えなさい。

①	②
---	---

- 1
- (2) 「月」の出ている場所はどこですか。適切なことばを書き抜いて答えなさい。

--

- 1
- (3) 「月」の様子を説明していることばを書き抜いて答えなさい。

--

2 次の文について、あとのそれぞれの問いに答えなさい。

〈彼女は、きのう紺色こんいしよのソックスをはいていた。〉

- 1
- (1) この文から、①「どんな」、②「何を」を説明していることばを、それぞれ書き抜いて答えなさい。

①	②
---	---

- 1
- (2) この文から「いつ」のことであることを説明していることばを書き抜いて答えなさい。

--

3 次の文について、あとのそれぞれの問いに答えなさい。

〈昔は「花」といえば、梅よりも桜のことを指すことが多かった。〉

- 1
- (1) この文で比べられているのは何と何ですか。文中から書き抜いて答えなさい。

〈 と が比べられている。 〉

と

- 2
- (2) 二つのうち、どちらを重視した表現になっていますか。文中から書き抜いて答えなさい。

--

5 文学的文章⑤

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

20

。

15

10

5

SAMPLE

2

□

(1)

□①

□⑤

に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号

ア 少しも動じていなかった

(注) 乾鱈かんごう 塩づけにした乾燥したタラ。

土塁 土で築いたとりで。

〈曾野綾子「極北の光」より〉

40

35

30

25

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



20

15

10

5

3

□

(1) — 線①「ぼくは銭湯で同級生の大熊君に会った」とありますが、このあと「その子は」と大熊君についての説明が始まります。その説明が終わって、— 線②と時間的につながる部分はどこから始まりますか。本文中からその最初の五字を書きぬいて答えなさい。

(注) 銭湯＝公衆浴場。ふろ屋。

豆シホリ＝豆つぶのような模様をしほり染めにしたもの。

府立の学校＝東京府立中学（当時は東京都ではなく、東京府だった）のこと。この当時、中学は義務教育ではなく、受験しなければならなかった。

〈安岡章太郎「宿題」より〉



35

30

25

3

□ (2) — 線②「宿題の持っている義務感が、初めてよくに伝わってきた」と

は、どういう意味ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

イ 宿題はやらねばならないものなのだとということ、このとき初めて思いついた。

エ 宿題が家にはまだ山ほど残っているということに、このとき初めて気がついた。

ウ 宿題をするにはもう時間がほとんどないということに、このとき初めて気がついた。

エ 宿題の帳面を自分が持っていて、それをみんなの分までやらねばならないことを、このとき初めて知った。

2

□ (3) — 線③「頭に来て」のこの場合の意味として最も適切なものを次から

選び、記号で答えなさい。

ア カツとなって。

イ おかしくなって。

ウ 気になって。

エ ハツとして。

3

□ (4) — 線④「目は、しかし活字の上をすべるだけだった」とはどういうこ

とですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア いくら読み返しても理解できなかった。

イ 何の苦もなくすらすらと読めた。

ウ 読んでも内容が頭に入らなかった。

エ 読めない字ばかりで、とほくに暮れた。

4

□ (5) — 線⑤「ぼくはいまさら勉強するわけにもいかなかった」とあります

が、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 夏休みの宿題帳に書かれている内容が、「ぼく」にはさっぱり理解できなかつたから。

イ お母さんが、「ぼく」の勉強する姿を見れば、宿題の存在に感づき、ひどく心配するから。

ウ 「ぼく」には、お母さんのような府立の学校に対するあこがれの気持ちになかつたから。

エ まだやっていない宿題の分量が、とても八日間では終わりそうになかつたから。

6

□ (6) — 線⑥「だが安心して起き出せるほど静かにならないうちに、ふしぎ

に物ほし台にはカンカン日があたっている」とは、どういうことを表していますか。書いて答えなさい。

4

□ (7) 本文中からは、「ぼく」がどんな少年であることがわかりますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 気が弱そうだが、しんはしっかりした少年。

イ 親に心配をかけまいとする優しい少年。

ウ 他人の言葉を信じやすい、人のよい少年。

エ 気が小さくて、意志が弱い少年。

10

説明的文章 ⑤

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい



20 15 10 5



45 40 35 30 25

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



25 20 15 10 5

〈池上嘉彦〉「ふしぎな」と「おもしろい」のふしぎ「よく



50 45 40 35 30

4 (1) 六か所ある※に共通して入る最も適切なことばを、ひらがな二字で書いて答えなさい。

3 (2) —線①「こういう不公平でおかしなところは、ことばのいろいろなところに見つかります」とありますが、「不公平でおかしなところ」とはどのようなことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ひとつのことばが複数のことばと対になっていること。
- イ ひとつのことばがたぐさんの意味をもっていること。
- ウ 同じ意味を表すことばがひとつの場合と複数の場合があること。
- エ 同じ意味を表すことばがたぐさんあること。

--

6 (3) —線②「高い」の反対を、ふたつ以上思いつきますか、③「また『やさしい』はどうでしょう」とありますが、それぞれの反対の意味のことばを二つずつ、漢字を用いて書いて答えなさい。

③	②	

4 (4) 本文の後半(【】の部分)の段落①・②の内容を参考にして、次のそれぞれの文の—線部「お天気」のうち、「よいお天気」を表すものにはア、「いろいろなお天気」を表すものにはイの記号で答えなさい。

- ① 明日がお天気でありますようにと、てるてるぼうずを作った。
- ② 夏休みの間、毎日のお天気を記録しておきなさい。
- ③ 明日のお天気を気かけながら、ベッドに入った。
- ④ 今日はお天気だから、ひばりがピーチク楽しげに歌っている。
- ⑤ この一か月、お天気の日を数えるほどしかなかった。

5 (5) —線④「もともと、中立的であった」とありますが、これを言いかえた表現を、ここよりあとの本文中から十七字(読点も字数に数えます)で探し、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

3 (6) ①④に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません)

- ア だから
- イ つまり
- ウ しかし
- エ もし

①
②
③
④

3 (7) —線⑤「それ」は何を指していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア よいほうのお天気
- イ 私たちの願い
- ウ よくも悪くもないこと
- エ 不安定なことば

--

5 (8) 本文の後半(【】の部分)を大きく三つに分けるとすると、どのように分けられますか。①第二の部分と、②第三(最後)の部分の最初の段落の番号で答えなさい。

①
②

1 古典 1

例題

浦島太郎は、一本の松の木陰に立ち寄り、^① あきればててぞ^② むたりける。太郎^③ * 思ふやう亀が^④ 与へしかたみの箱、^⑤ 開けさせ^⑥ たまふなど^⑦ 言ひけれども、* 今は何かせん、開けて^⑧ 見ばやと思ひ、見るこそ^⑨ くやしかりけれ。この箱を開けて見れば、中より紫の雲^⑩ 三すぢ上りけり。これを見れば二十五の齢も、たちまちに変わりはてにける。

(注) あきればてて(変わり果てた故郷を見て) ぼうぜんとして。

思ふやう(思う)には。

開けさせたまふ(お開けになってはいけません)。

今は何かせん(今となってはどうしようもない)。

見ばや(見よう)。

くやしかりけれ(残念だった)。

3 (1) — 線①「あたりける」、②「思ふやう」、③「与へし」、④「たまふな」、⑤「言ひけれども」、⑥「三すぢ」を、それぞれ現代かなづかいに直して、

すべてひらがなで書きなさい。

4 (2) — 線①「あたりける」、②「思ふやう」、③「与へし」、④「言ひけれども」の主語にあたることばを、それぞれ本文中から書きぬいて答えなさい。

7 (3) 本文全体の現代語訳を書きなさい。

解法のポイント

(1) **かなづかい** まず歴史的かなづかいが読めるようになりましょう。

○歴史的かなづかいで、一つのことばの語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、現代かなづかいでは「ワ・イ・ウ・エ・オ」で表記します。ただし、「朝日(あさひ)」「手本(てほん)」のような複合語(「朝+日」「手+本)」の場合、下の語のハ行の音はそのまま表記します。

○「ぢ・づ」は、現代かなづかいでは「ジ・ズ」で表記します。

○「ゐ・ゑ・を」は、現代かなづかいでは「イ・エ・オ」で表記します。

○「[yau]」など、母音にuの母音が続くときは、長音になります。

例 「やう」↓「よう」

例 「しう」↓「しゅう」

例 「てう」↓「ちよう」

① 〓 いたりける

② 〓 おもうよう

③ 〓 あたえし

④ 〓 たもうな

⑤ 〓 いいけれども

⑥ 〓 みすじ

(2) **主語** それぞれの主語は、①「浦島太郎」、②「浦島太郎」、③「亀」、④「亀」です。古文は主語の省略が多いので注意しましょう。

(3) **現代語訳** (注)も参考にしながら、「が」「を」などのことばを補って、現代語に書きかえましょう。

〈例題の古文の現代語訳〉

浦島太郎は、一本の松の木陰に立ち寄って、(変わり果てた故郷を見て) ぼうぜんとしていた。太郎が思うには、「亀のくれた形見の箱を、『お開けに なるてはいけません』と言ったけれども、今となってはどうにもならない、 開けてみよう」と思って(開けて)見たのこそ残念なことだった。この箱を 開けて見ると、中から紫の雲が三本立ち上った。(太郎が)この紫の雲を見 ると二十五歳という太郎の年齢も、たちまちに変わりはてて(おじいさんになっ て)しまった。

確認問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

さる塩売しほりう、四条河原橋しじょうがはらの上にて、あやまつて塩俵しほばらを河へ落とす。なにが塩しほのことなれば、**①**皆水みなになる。かの塩売、かなしさのあまりに、声をあげて泣く。**②**往來ゆききの人、大男の泣くを見て、さてさて、塩しほの五俵ごへうや十俵じゅうへうのことにて泣くものか。未練ゆきなど**③**笑ふ。その時、塩売、**④**はづかしがり、**⑤**ぬからぬふりにて、「塩しほの五俵ごへうや十俵じゅうへうながしたが、さのみ悲しうはないが、大勢おほしの魚いさながのどのかわかうとおもうてかなしい」というた。

〔当世軽口にがわらひ〕より

〔現代語訳〕

ある塩売りが、四条河原橋の上で、あやまつて塩の入った俵を川へ落とす。なにしろ塩のことなので、皆水になる。その塩売りは、悲しさのあまり、声をあげて泣く。往來の人は大男が泣くを見て、さてさて、塩の五俵や十俵のことで泣くことがあるうか。未練がましいものだと思ふ。その時、塩売りは、はづかしくなり、泣いていないふりをして、「塩の五俵や十俵流したところで、それほど悲しくはないが、たくさん魚のどがかわくだらうと思つて悲しい」と言った。

2

□ (1) **かなづかい** — 線**③**「笑ふ」、**④**「はづかしがり」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

④	③
---	---

4

□ (2) **内容理解** — 線**①**「皆水になる」とは、どうなったことを指していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア すべての俵が水に流されたこと。
- イ 塩売りの努力がむだになったこと。
- ウ 塩がすべて水にとけたこと。
- エ 塩が水をからくしたこと。

4

□ (3) **会話文** — 線**②**「往來の人」の言った言葉が書かれているのはどこからどこまでですか。「古文」の中から、その最初と最後の三字を書きぬいて答えなさい。

□	□
---	---

4

□ (4) **古語の意味** — 線**⑤**「ぬからぬふり」の意味に当たる部分を、「現代語訳」の中から書きぬいて答えなさい。

--

5

□ (5) **主題** 本文のおかしさはどのようなところにありますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 塩売りが、ほんのわずかな損失をおしんで、大げさに泣いているところ。
- イ 往來の人が、自分の失敗を棚に上げて、塩売りの失敗を笑っているところ。
- ウ 塩売りが、塩をおしんで泣いたことを、負けおしみを言って、ごまかしているところ。
- エ 塩売りが、魚たちのどがかわくだらうと、魚たちの身の上を本気で心配しているところ。

2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

① めづらしと言ふべき事にはあらねど、
 ② 文こそなほめでたきものなれ。
 ③ はるかなる世界にある人の
 いみじうおぼつかなく、
 ④ いかならむと思ふに、
 文を見れば、ただいま
 ⑤ さしむかひたるやうにおぼゆる、
 ⑥ いみじき事なり
 かし。

〔清少納言「枕草子」より〕

〔現代語訳〕

めづらしいと言ふべきことではないが、
 ① はやはりすばらしいものだ。
 はるか遠くの地に住む人がたいそう気がかりで、
 ② と思つて
 いる時に、
 ① を見ると、まさに今、はるか遠くの地に住む人とさし向か
 いで会つていふように思える。すばらしいことだ。

4

① **かなづかい** — 線①「めづらしと言ふべき事にはあらねど」、⑤「さしむかひたるやうにおぼゆる」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

⑤	①
---	---

3

② **古語の意味** — 線③「いみじう」の意味に当たる部分を、「現代語訳」の中から書きぬいて答えなさい。

4

③ **古語の意味** 二か所ある ① には、——線②「文」の現代語訳が入ります。そのことばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 書物
- イ 勉強
- ウ 創作
- エ 手紙

4

④ **古語の意味** ② には、——線④「いかならむ」の現代語訳が入ります。そのことばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どうしているだろうか
- イ どこへ行ったのだろうか
- ウ なぜ行ったのだろうか
- エ 何を見ようか

5

⑤ **要旨** — 線⑥「いみじき事」とありますが、筆者は、どういうことを指して、「いみじき事」と述べていますか。現代語を用いて、四十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

3

⑥ **文学史** 『枕草子』が成立した時代として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 奈良時代
- イ 平安時代
- ウ 鎌倉時代
- エ 江戸時代

3 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、^{*}丹波たんばの国に、大きな^{*}玉もちたる^{*}翁おきなありけり。その玉、うちにはひかりをかくして、^{*}ゆかしき言はんかたなし。人その玉を^{*}百貫に買はんといふ。^①翁おもふやう、かくてだにあるを、ひかりまさば^{*}あたひなほ限りあらじとおもひて、^②百貫にはとて売らず。さて、夜に日にすりみがきけるほどに、わづかにきずあらはれ出でぬ。翁^{*}あさましとまどひて、いよいよすみみがくにしたがひ、きずは大に、玉は豆ばかりになりぬ。はじめ買はんと言ひし人も、今は^{*}さたなくなりけるとぞ。

〈与謝蕪村「与謝蕪村集」より〉

(注) 丹波の国は現在の兵庫県と京都府の一部。

玉は宝玉。

翁はおじいさん。

ゆかしき言はんかたなしは言いようもないほど上品な美しさだ。

百貫は「貫」は金銭の単位で、百貫はかなりの大金になる。

あたひなほ限りあらじはもつとずっと高くなるだろう。

あさましは意外なことだ。

さたなくなりけると何も言って来なくなった。

5 □ (1) 古語の意味——線①「買はん」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 買わない。

イ 買うだろう。

ウ 買うまい。

3 □ (2) —線②「翁おもふやう」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。
① かなづかい「おもふやう」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

がなで書いて答えなさい。

6

② 内容理解 翁がここで思った内容を、現代語を用いて、「〜と思った。」という形で、四十五字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

さい。

4 □ (3) 内容理解 —線③「百貫には」のあとには、どのようなことばが省略されていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 売りたい

イ 売らない

ウ 売ってほしい

エ 売れる

4 □ (4) 要旨 本文を通して筆者が言いたかったこととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア「玉にきず」ということわざがある通り、どれほど優れた物にでも欠点はあるものだ。

イ物を売る時には、きちんと手入れをして売り物が最高の状態になったときに手放すべきだ。

ウどんなに美しい宝物でも、持ち主の心がけが悪ければ、美しさが失われるものだ。

エ欲をあまり出し過ぎると、かえって元も子もなくすということがあるものだ。

ウ

ウ

エ

エ

エ

1 文法 ①

例題

〈外山滋比古「新編かたりべ文化」より〉

(1) この文章は、いくつかの段落で構成されていますか。数字で答えなさい。

(2) 【一】の部分は、いくつかの文で構成されていますか。数字で答えなさい。

(3) —線部「デパートから帰ってくる」と、独特な疲れ方をしている」を文節ごとに分けなさい。

(4) —線部「デパートから帰ってくる」と、独特な疲れ方をしている」を単語

ごとに分けなさい。

解法のポイント

● ことばの単位

ことばは、次のような単位で分けられます。

○文章…一編の小説、一通の手紙など、全体で一つのまとまりのある考えを述べたものを文章と言います。

○段落…内容の上から文章をいくつか区切った場合の一区切りを段落と言います。段落の始まりは、行を改めて一字下げます。例題の文章は、「人間はだれしも衝突をさける。」の段落、「デパートから帰ってくる」と、～疲れるのであろう。」の段落、「デパートよりもっと～原因だと想像される。」の段落の三つで構成されています。

○文…句点（。）による切れ目で区切られた場合の一区切りを文と言います。例題の文章の【一】の段落は、「～筒を持っている。」「～ナワ張りである。」「～許さない。」「～必要がある。」「～人格を認めない。」「～モノである。」「～衝突をさける。」の七つの文で構成されています。

○文節…文を、意味が不自然にならない程度にできるだけ細かく区切った場合の一区切り（「ネ・サ」をつけて不自然でないもの）を文節と言います。例題の一文は、「デパートから帰ってくる」と、～独特な疲れ方を～して～いる」と、七文節で構成されています。

○単語…文節を、これ以上区切るとことばでなくなるぎりぎりまで分けたものを単語と言います。これがことばの最小単位となります。例題の一文は、「デパートから帰ってくる」と、～独特な～疲れ方を～して～いる」と、十二の単語で構成されています。「独特な」「いる」のように一単語がそのまま一文節になる場合と、複数の単語が合わさって一文節になる場合があります。

確認問題

1 1つ1つの単位 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈武田鉄矢「母に捧げるバラード」より〉

20 15 10 5

2 (1) この文章は、いくつの段落で構成されていますか。数字で答えなさい。

3 (2) 【 】の部分は、いくつの文で構成されていますか。数字で答えなさい。

(3) — 線①「親父が老け込み始めたのはこの頃であった」、②「夜は深夜の一時過ぎまで針を止めなかった」を文節ごとに分けた場合の分け方として最も適切なものを、次のそれぞれから選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 3 | 3 | 3 |
| ① | ② | ③ |
| ア | イ | ウ |
| 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった | 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった | 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった |
| エ | イ | ウ |
| 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった | 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった | 親父が／老け込み始めたのは／この頃で／あった |
| ア | イ | ウ |
| 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった | 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった | 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった |
| エ | イ | ウ |
| 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった | 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった | 夜は／深夜の／一時過ぎまで／針を／止めなかった |

①		
②		

3 (4) — 線③「それで私から母へ条件を出した」を単語ごとに分けた場合の分け方として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア それで／私／から／母／へ／条件／を／出した
- イ それで／私／から／母／へ／条件／を／出し／た
- ウ それで／私／から／母／へ／条件／を／出した
- エ それで／私／から／母／へ／条件／を／出し／た

2

文節 次のそれぞれの文の文節の分け方として適切なものを、それぞれのあとから1つずつ選び、記号で答えなさい。

3

(1) 弟は、大きな声をあげて泣き出した。

ア 弟は、／大きな声を／あげて／泣き出した。

イ 弟は、／大きな／声をあげて／泣き出した。

ウ 弟は、／大きな声を／あげて／泣き／出した。

エ 弟は、／大きな／声を／あげて／泣き出した。

3

(2) 蚕をくわの葉の上に置いてやった。

ア 蚕を／くわの／葉の上に／置いてやった。

イ 蚕を／くわの葉の／上に／置いて／やった。

ウ 蚕を／くわの／葉の／上に／置いて／やった。

エ 蚕を／くわの葉の／上に／置いてやった。

3

(3) 友人はびよんと木の枝に飛びついた。

ア 友人は／びよんと／木の／枝に／飛びついた。

イ 友人は／びよんと／木の枝に／飛び／ついた。

ウ 友人は／びよんと／木の枝に／飛びついた。

エ 友人は／びよんと／木の／枝に／飛び／ついた。

3

(4) 昔々、ある所におばあさんが住んでいた。

ア 昔々、／ある所に／おばあさんが／住んでいた。

イ 昔々、／ある所に／おばあさんが／住んで／いた。

ウ 昔々、／ある／所に／おばあさんが／住んでいた。

エ 昔々、／ある／所に／おばあさんが／住んで／いた。

3

(5) もみじの葉がひらひらと舞い落ちてくる。

ア もみじの葉が／ひらひらと／舞い落ちてくる。

イ もみじの／葉が／ひらひらと／舞い／落ちてくる。

ウ もみじの／葉が／ひらひらと／舞い落ちて／くる。

エ もみじの／葉が／ひらひらと／舞い／落ちて／くる。

4

(6) 面白くないと思いつながらテレビを見た。

ア 面白くないと／思いつながら／テレビを／見た。

イ 面白くないと／思い／ながら／テレビを／見た。

ウ 面白く／ないと／思いつながら／テレビを／見た。

エ 面白く／ないと／思い／ながら／テレビを／見た。

4

(7) 塩からいみそ汁を我慢して飲んだ。

ア 塩からい／みそ汁を／我慢して／飲んだ。

イ 塩からい／みそ汁を／我慢／して／飲んだ。

ウ 塩／からい／みそ汁を／我慢して／飲んだ。

エ 塩／からい／みそ／汁を／我慢／して／飲んだ。

4

(8) 私たちは絶対に勝利をあきらめることはしない。

ア 私たちは／絶対に／勝利をあきらめる／ことは／しない。

イ 私／たちは／絶対に／勝利をあきらめる／ことは／しない。

ウ 私たちは／絶対に勝利を／あきらめること／はしない。

エ 私たちは／絶対に／勝利を／あきらめる／ことは／しない。

3 単語 次のそれぞれの文の単語の分け方として適切なものを、それ
 ぞれのあとから一つずつ選び、**10**で答えなさい。

3

(1) 名誉めいよこそが彼かれの最も愛するものだ。

ア 名誉／こそが／彼／の／最も／愛／する／ものだ。

イ 名誉／こそが／彼／の／最も／愛するもの／だ。

ウ 名誉／こそが／彼／の／最も／愛するもの／だ。

エ 名誉／こそが／彼／の／最も／愛／するもの／だ。

4

(2) 私たちのクラスの人数は三十人だ。

ア 私たち／の／クラス／の／人数／は／三十／人だ。

イ 私たち／の／クラス／の／人数／は／三十人／だ。

ウ 私／たち／の／クラス／の／人数／は／三十／人だ。

エ 私／たち／の／クラス／の／人数／は／三十人／だ。

3

(3) 忘れ物を受け取りに事務所へ行く。

ア 忘れ物／を／受け取り／に／事務所／へ／行く。

イ 忘れ物／を／受け／取り／に／事務所／へ／行く。

ウ 忘れ／物／を／受け取り／に／事務所／所／へ／行く。

エ 忘れ／物／を／受け／取り／に／事務所／所／へ／行く。

4

(4) この皿は熱に耐えるようにできている。

ア この皿／は／熱／に／耐えるように／でき／て／いる。

イ この皿／は／熱／に／耐える／ように／でき／て／いる。

ウ この／皿／は／熱／に／耐える／よう／に／でき／て／いる。

エ この／皿／は／熱／に／耐える／よう／に／でき／て／いる。

練習問題

1 次のそれぞれの文は、いくつかの文節から成り立っていますか。数字で答えなさい。

(1) 時計のベルが鳴る。

(2) 少しもった音色で鳴る。

(3) ねむっていた私はあわてて起き上がる。

(4) 服を着がえ、歯をみがき、朝食を食べる。

(5) 今日も朝からよい天気で、気持ちがいい。

(6) さあ、勉強とクラブを両立させてがんばろう。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

2 次のそれぞれの文は、いくつかの単語から成り立っていますか。数字で答えなさい。

(1) 夏が 来た。

(2) 太陽が 照りつける。

(3) 頭の上で セミが 鳴く。

(4) 暑いから プールへ 泳ぎに 行こう。

(5) 水着と タオルと ゴーグルを 持って 行こう。

(6) そう 決めたら、たちまち 気分が 浮き立って きた。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

1 原稿用紙の使い方覚える

作文の清書は、原稿用紙の正しい使い方にしたがって行いましょう。まちがった使い方をした場合には減点の対象になるので、作文用紙に文を書くことに慣れておくことが大切です。

① 手伝いをするというこ
② 渡辺 久美子
③ 現在、多くの親が、いまの子供には家の手
④ 伝いの時間が不足していると感じている。
⑦ そういえば、先日母が、
⑨ 「私が子供の頃には、学校から帰るとすぐ
⑧ 『手伝いがあるよ』と言われて、家の仕事
を手伝ったものよ。』
⑤
と話していた。
⑩
手伝いは「しなければならぬ」ものでは
なくて、自分から積極的に行うものだと思
う。
⑥
これから自分のできることを、少しずつし
ていきたい。

原稿用紙に清書するときの注意点

- ① 題名を書くときは、上を三字分あける。
- ② 氏名を書くときには、姓と名の間を一字分あける。名の下は二字分あける。
- ③ 段落の初めは一字分あける。
- ④ 、 。 ？ ！ 「 」 などの符号も一マスとる。
- ⑤ 、 や 。 と 「 」 が続いたときは、一マスの中にいっしょに書く。
- ⑥ 、 や 。 は行の頭にならないように、前の行の終わりの文字と同じマスに入れる。
- ⑦ 改行して段落を変えるときは一字分あける。
- ⑧ 『 』 (二重かぎかっこ) は、 「 」 や () の中に、さらに引用するとき用いる。
- ⑨ 会話文や引用文はふつう改行する。ただし、地の文として用いたい場合
- ⑩ () は改行しなくてもよい。

例題

次の作文の清書について、まちがいの部分をさがし、傍線を引きましょう。

今年は例年になく暑い夏となった。この暑さには、いつも元気な父も、「こんな気候だと、熱中症になってしまわない。」と、少々バテ気味だ。

しかし私は「暑い夏」に少しだけほっとしているのだ。最近、冬には雪が降らなくなった。夏は夏らしく暑く、冬は冬らしく寒い方がいい。四季に恵まれた日本の気候を楽しみたいと思う。

練習問題

次の文を作文用紙の正しい使い方に従って、あとの原稿用紙に書いてみましょう。

★ 一文ごとに改行しましょう(会話文も同様)。

先日、混んだ電車にお年寄りが乗ってきて、座っていたわたしの目の前に立った。わたしはそのおばあさんに、「どうぞおかけください。」と声をかけ、席を譲った。するとおばあさんは、礼を言って、うれしそうに席に座った。よいことをしたようで、一日中気分がよかった。人への親切の効用は、意外とこんなところにあるのかもしれないと思った一日であった。

Blank composition paper grid for the practice problem.

2 二段落構成の文章を書く

作文の最も基本的な形である、二段落構成の文章を書く練習です。

入試では、一段落目と二段落目に書く内容を指定され、その構成にそった形で作文することがよくあります。決められた形での作文なので、条件をしっかりと読み、そこから外れることのないように注意します。

このベースの形をマスターしておく、その後、自分なりの文章の応用がきくようになるので、二段落構成の作文には十分に慣れておきましょう。

● 作文のポイント ●

- 与えられたテーマと、決められた条件を必ず守るようにする。
- どちらかの段落だけが長くなるといったことがないように、バランスをとった構成にする。
- 一段落目と二段落目のつながりに注意する。一段落目の内容を二段落目ではしっかりと受けて書くようにする。

■ 例題 ■

「敬語」を使用したときの自分の体験等の例を挙げ、その体験等から感じたり考えたりしたことを、作文上の注意事項にしたがって作文しなさい。
(千葉)

★ 二段落構成にすること。

★ 第一段落には、自分の体験等の例を挙げ、第二段落には、体験等から感じたり考えたりしたことをまとめて書くこと。

メモ

① 「敬語」についての体験

・いつのことか

・場所はどこか

・だれが体験したのか

・どんな体験をしたのか

② その体験から、「敬語」について考えること

・その体験をしてはじめて分かったこと

・その体験をして考えたこと

・その体験をしてこれからどう自分は変わると思うか

③ ①・②のまとめ(字数は自由です。内容を補足しながらまとめよう)

私は先日、こんな体験をした。

私はその体験から、次のようなことを考えた。

■ 実戦問題1

「男女が共に協力し合う社会について」という題で、次の条件にしたがって文章を書きなさい。

(青森)

- ★ 二段落構成とし、第一段落では、体験や見聞を具体的に書き、第二段落では、そのことに対する自分の考えを書くこと。
- ★ 全体を百五十文字以上、二百字以内でまとめること。

メモ

■ 実戦問題2

「中学生に携帯電話は必要か、必要でないか」について、次に示す注意にしたがい、文章を書きなさい。

(沖縄)

- ★ 二段落構成の文章にすること。
- ★ 第一段落ではあなたの考えを述べ、第二段落ではその理由を書くこと。
- ★ 全体を百五十文字以上、三百字以内でまとめること。

メモ